

公益財団法人8020推進財団

平成28年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：老人保健施設及びオペセンターにおける口腔管理実態調査と啓発活動

2. 申請者名：トヨタ記念病院 歯科口腔外科 町田純一郎

3. 実施組織：トヨタ記念病院 歯科口腔外科 トヨタ記念病院 感染症科 豊田加茂歯科医師会

4. 事業の概要：本事業では、当科が歯科保健活動助成金を受け行った事業を継続すると共に、これまでの成果を学会発表（第18回日本医療マネジメント学会学術総会）と論文発表（日本歯科医師会雑誌, 69(6):17-23, 2016.）を行い、積極的に発信する活動を行った。またトヨタ記念病院内の活動として、口腔ケアに関する勉強会を継続的に開催し、口腔管理の重要性や口腔機能について患者や病院職員に幅広く提供する事業を行った。

5. 事業の内容

（1）鎌田郁花、町田純一郎、大竹さくら、岡本泰岳；トヨタ記念病院における周術期口腔機能管理システムの検証. 第18回日本医療マネジメント学会(2016年4月22日-23日福岡市).

この発表では、過去4年間において当科で周術期口腔機能管理を算定した1,004名に対して、患者数、紹介科(特に当院オペセンターでの詳細)、逆紹介率などを検討した。その結果患者数は約2.6倍に急増し、病院経営にも貢献していることが示された。患者の内訳を2012年と2015年で比較検討したところ、消化器外科、呼吸器外科が最も多く、特に化学療法患者の増加が目立つ事がわかった。医科歯科連携が望まれる中で外科系では口腔管理の重要性について理解が深まってきたが、最近では内科系にも理解が深まりつつある事が解った。また化学療法患者に対して逆紹介率が低い傾向にあるため、今後は地域歯科医師会との連携を進める必要性が示唆された。

（2）岡本泰岳、町田純一郎；アウトカム志向のクリニカルパスが医療の質を向上させる. 日本歯科医師会雑誌, 69(6):17-23, 2016.

近年、多職種、多診療科が介入するチーム医療がさまざまな疾患の管理において成果を出している。その上で医科は、クリニカルパスを重要なツールとして利用し始めている。特に誤嚥性肺炎や糖尿病治療、がん治療の治療を行う急性期病院の多くでこれに取り組んでいる。近年は地域連携パスにより、急性期の病院だけでなく、リハビリ病院、慢性期の病院の他、診療所や介護施設などもパスに関与するようになった。本稿では、歯科におけるクリニカルパスの有用性のみならず、周術期口腔管理について医科歯科連携のツールとして、さらに地域医療連携や地域包括ケアを推進するツールとしてクリニカルパスの重要性を述べた。

6. 実施後の評価（今後の課題）

本年度は、本事業のこれまでの継続性のある活動を行うと共に、口腔機能管理の重要性を社会に還元する活動も行えた。学会発表では急性期病院で行う周術期口腔管理が病院経営にも貢献し、オペセンターでの検討を行うことで、当科で行っている周術期口腔機能管理の問題点や不足点を抽出することができた。今後も本事業を継続し地域歯科医師会との連携を深めていきたい。また論文発表では、歯科医療が地域医療連携で果たす役割を示しながら、チーム医療、医療の質向上に非常にクリニカルパスが有用であることを述べた。今後もクリニカルパスを院内自己完結型医療にとどまらずに地域医療連携、地域包括ケアを推進するツールと位置づけ活動を継続していきたい。